

カウンセリングを考える② 教師とカウンセリング

近年、「教師はカウンセリングスキルを身に付けるべきだ」「教師にもカウンセリング・マインドが必要だ」という声が大きくなり、周囲からもそういった対応を求められることが多くなりました。こうした動きの中、研修会等びカウンセリングの理論や技術を修得しようとして努めている教師も増えていきます。しかし、熱心に勉強している人はおそらく、学校現場で教師がカウンセリング（的な相談活動）をすることの難しさを感じていることと思います。

教師（特にクラス担任）は、授業で講義をするほかに、一日に多くの生徒と対話をし、時には問題行動等を起こした生徒や保護者との面談もします。限られた時間の中で、できるだけたくさんの生徒と効率よく（多少語弊がありますが）対話をしたいと思うと、どうしてもガイダンス（指示）的な色合いが濃くなりがちになってしまいます。

ここで言いたいことは、『教師』は『カウンセラー』ではないということびす。カウンセリングスキルを生かすということびは、必ずしもカウンセリングを実践することびではありません。そのノウハウを知りつつ、ここぞというときに、子どもたちの心を理解する手がかりにすればよいのではないびしょうか。



カウンセラー 小林晶子